

# 平成29年度 県立芦屋高等学校 学校評価（目標と評価方法）

## 1 学校経営のテーマ

「グローバル社会を生き抜く魅力ある芦高、芦高生の創造 ～生徒・保護者の夢を叶える進路実現を～」

○めざす「芦高」像

教育綱領「自治」「自由」「創造」の具現化と新たな学校文化の創造

- ・高貴な人格と確かな学力を育む「学び」を徹底する学校
- ・地域の伝統校として期待され信頼される学校
- ・不易と流行、温故知新の気概が息づく学校

○めざす「芦高生像」

論理的思考力があり、自治を重んじるとともに自由で柔軟な発想ができる生徒

- ・変化の激しい時代において、様々な困難や課題に果敢に挑戦できる生徒
- ・志を高く掲げ、したたかにそしてしなやかに努力できる生徒
- ・「時を守り、場を清め、礼を正す」ことのできる、こころ豊かで自立した生徒

## 2 本年度の重点目標

第2期「ひょうご教育創造プラン」を踏まえ、次の6項目を重点目標とする。

- (1) 「生きる力」を育み、一人一人の自己実現を目指したキャリア教育の充実
  - ア 自らの意志と責任で進路を選択決定する能力・態度を育成する。
  - イ 勤労や職業に対する考え方を育むとともに、個に応じた支援の充実に努める。
- (2) 外国人生徒の特別入学制度をもとに、多様な文化背景をもつ生徒間での交流を促進する。
  - ア 特別枠で入学した生徒に、取出授業、日本語学習等の学習支援を行い、進路実現を支援する。
  - イ 姉妹校提携した学校との交流、海外語学研修、留学生の受入れを通して、コミュニケーション力・プレゼンテーション力の伸張を図る。
- (3) 基礎・基本の確実な定着と活用する力を育成し、確かな学力の育成及び個性や創造性を伸ばす教育の充実
  - ア 基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図り、個性を生かす教育の充実に努める。
  - イ 多様な選択科目の設置や少人数授業、きめ細かなキャリアガイダンス等を通して、自ら学び、自ら考え、自ら行動する力を育成する。
  - ウ 問題解決的学習や体験学習を積極的に取り入れ、学習した内容を活用する力の育成に努める。
- (4) 教職員としての資質と実践的指導力を向上し、教職員の協働体制による学校の組織力の向上
  - ア 生徒の多様なニーズに対応するため、教育内容や教材の精選、指導方法の工夫に努めるとともに相互に研修する機会を設け、「教育の専門家」としての資質・能力の向上に努める。
  - イ 教職員が互いに努力を認め合い、励まし合うことのできる人間関係づくりに努める。
- (5) 地域に信頼され、地域の期待に応える開かれた学校づくりの推進
  - ア 学校の教育方針や教育内容について保護者や地域住民等への理解を図るとともに、学校への要望などにも留意し、地域に信頼される学校づくりを進める。
  - イ 地域住民と連携し、「高校生ふるさと貢献活動事業」の積極的実施を通じて、開かれた学校づくりを推進する。
  - ウ 地域及び関係機関等と連携して、震災後の取組を発展させた防災教育の充実に努める。
- (6) 自治・自律の精神及び命と人権を尊重する「心の教育」の推進と豊かな人間性の育成
  - ア 生徒一人一人に社会生活のルールや基本的なモラルを守る倫理観の育成を図るとともに、自己責任の自覚、自立心の涵養に努める。
  - イ 命の大切さを基盤とし、学校内外の活動や体験を通して、やさしさや寛容の精神を育み、共に助け合って生きる心の教育を進める。
  - ウ 生徒の心のケアに対応する校内の教育相談体制の整備に努める。

## 3 総合的な自己評価

- (1) キャリア教育については、進路課・ガイダンス課の取組が着実に進められているが、更に改良を重ねていく必要があると思われる。3年次の進路実績の向上や1年次の総合的な学習の時間を活用したレポート作成など、新たな取組が教職員の努力により行われ成果を上げた。
- (2) 外国人生徒の支援については、モデル校2年目として、授業公開や他校との連携会議を行うなど、1つ1つ実績を積み上げている。来年度は3年目まとめの年としての総括が求められる。
- (3) 学力向上については、補習体制の確立や新聞記事を活用した思考力の育成、発信など、年次から新たな取組が始まっている。学習センターとしての図書館の充実にも取り組んでいく必要がある。
- (4) 教職員の資質向上においては、新たな給付型の奨学金についてはきちんと対応できたが、評価に関するミスが起これ、新システムへ対応、ミスを防止するための日程の見直し、マニュアルづくりを進めている。
- (5) 地域との連携については、オープンハイスクール、学校案内・広報紙の配布など取組、地域と連携した防災教育が進んでいる。ホームページの更なる活用について検討を進めたい。
- (6) 心の教育については、生徒・教員アンケートからは高い評価が得られているが、更なる深みのある指導が必要とされている。今年度は転退学者が増えており、生徒理解及び生徒のコミュニケーション能力を高める取組が求められている。

## 4 学校関係者評価総括

入学志願者数の増加、芦屋高校に行きたいという生徒が増えていることから、学校が良くなっているという雰囲気は伝わってくる。また、「学校生活が楽しいですか」という満足度が、学年毎に上がってくるなど、学校の取組の成果が上がっていると高い評価を得た。ただ、学校の取組、単位制のカリキュラムの魅力が中学生やその保護者、地域にもっと広報する努力をして欲しいとの意見があり、広報の充実が今後の課題である。「第1志望を持っているか」との問いに対する、生徒・保護者と教員の意識の乖離が有ることに、生徒の実態をどう把握するかについて教員の努力が必要であること、また、評価項目に授業の充実や基礎基本の充実などの評価項目を入れてもらいたいとのご意見を頂いた。地域との交流が増えることで、生徒が地域の方にも挨拶をしてもらえるようになったこと、伸び伸びとした表情が伺えるとの好評価を得た。

## 5 次年度に向けた重点的な改善点

県政150周年行事、防災活動など地域を巻き込んだ芦屋高校の魅力が発信できる活動を充実させ、その成果をしっかりと広報していくことが重要である。また、高大接続改革、新学習指導要領に向けた教育課程の見直し、生徒の主体的な考察・活動を促す授業づくりを、単位制の特色を生かしながら進めていくが次年度への課題である。

4 重点目標別自己評価結果

重点目標	実践項目	評価方法	評価	達成状況と改善の方策
<p>(1)「生きる力」を育み、一人一人の自己実現を目指したキャリア教育の充実</p>	<p>①進路別説明会・AUSSキャンパスを活用して、生徒の進路意識の向上に努める。【進路】</p> <p>②高大接続に対応した進路の取り組みを、各教科・年次と連携して準備する。【進路】</p> <p>③各年次・教務課・進路課と連携し、生徒一人一人の個性と進路希望に応じた履修計画を作成させる。【ガイダンス】</p> <p>④生徒が主体的に履修計画を作成できるように、各種資料・情報を適切に提供し、「進路ナビ」「仕事ナビ」などの行事を通じて高校生活の在り方や将来の生き方を考えさせる。【ガイダンス】</p> <p>⑤第1志望を明確にし、確かな学力を身につけて生徒それぞれの希望進路を実現する。【3年】</p> <p>⑥芦高タイムα（総合的な学習）やLHRにおいて、自らの興味関心に基づいて決めたテーマでレポートを作成し、現在と将来を連続的にとらえる力を育む。【1年】</p>	<p>①進路別説明会、AUSSキャンパス・インターンシップの実践内容及び満足度に関するアンケートにより評価する。【進路】</p> <p>②年度末に総括を行い、年次からの意見をまとめて評価する。【進路】</p> <p>③ガイダンスブックを使用した「芦高タイムα」の時間を利用して履修登録計画を提出させ、その内容から評価する。【ガイダンス】</p> <p>④「進路ナビ」「仕事ナビ」などの行事の実践を通しての、生徒の感想等の内容から評価する。【ガイダンス】</p> <p>⑤進路実績、センター試験、模擬試験の結果について例年と比較し、評価する。【3年】</p> <p>⑥レポート作成を通して、今、おこなうべき事柄を理解し、取り組むことができるようになる。【1年】</p>	<p>B</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>A</p> <p>A</p>	<p>①「AUSSキャンパス」および、3年次の「進路別説明会」については、アンケートで80%以上の生徒が講義内容に対して好感を持ったことを示し、進路意識の向上に役立ったものと思われる。 1, 2年次の「進路別説明会」については、講座によって講師の説明内容が満足できるものではなかったという指摘もあり、実施面での課題が残った。【進路】</p> <p>②9月に講師を招いて進路研修会を実施し、新入試テストへの理解を深める機会を持った。各教科の対応については、現在も検討中であるが、肝心の新テストの全容がまだ流動的なため、対応の方針を出すにはもう少し時間が必要と思われる。【進路】</p> <p>③「シラバス」「ガイダンスブック」については生徒の40%、保護者の55%が役立っているとの肯定的評価をしている。科目選択時においては、両冊子をさらに活用し、科目登録を行わせる必要がある。【ガイダンス】</p> <p>④各種AUSSナビ関係については、生徒の44%、保護者の44%が役立っているとの肯定的評価をしている。講師との連絡調整をさらに密に行い、生徒や保護者の求めているような講義内容の工夫や改善を図る必要がある。【ガイダンス】</p> <p>⑤進路実績はまだ確定ではないが、センター試験の結果も例年以上によく、模擬試験の結果も3年間を通して良好であった。生徒の奮闘はもちろん、担当教員の献身的な指導の成果が大きい。【3年】</p> <p>⑥約4か月にわたるレポート作成の過程で、自らが決めたテーマに関する事柄を掘り下げ、現在の問題点や今後の対応策などを考察することができた。また、中間レポートの提出を設定することにより、多くの生徒が進捗状況を意識し、計画的にレポートの作成に取り組むことができた。【1年】</p>
<p>(2)外国人生徒の特別入学制度をもとに、多様な文化背景をもつ生徒間での交流を促進する。</p>	<p>①外国人生徒への支援体制の充実をはかり、問題点の改善をはかる。【総務】</p>	<p>①□当該生徒や保護者からの聞き取り内容や各教科の試験の達成度を分析し評価の基準とする。【総務】</p>	<p>B</p>	<p>①校内での支援体制の基盤が整い始め、課題に対する対応ができた。 学校間や校外とのさらなる共同体制の構築が課題である。【総務】</p>

<p>(3) 基礎・基本の確実な定着と活用する力を育成し、確かな学力の育成及び個性や創造性を伸ばす教育の充実</p>	<p>① アドバンスタイム、早朝・昼休み、長期休業中の補習を利用するなど、進路実現に向けた自学自習の習慣を充実させ、主体的に学習する習慣を身につける。【2年】</p> <p>② 新聞記事を活用した「羅針盤」を定期的に発行し、社会との関わりを通じて自己のあり方を考えさせる。【1年】</p> <p>③ 学習センターとしての図書館活動推進の指針造りを進める。【図書】</p> <p>④ 図書センターとしての充実を図る。【図書】 a) 配架・排架の日常的な点検 b) リクエストの継続 c) 教科・特別活動。「教育ビジョン」とリンクした図書の充実</p> <p>⑤ 「学校図書館利用に関する基本計画」の策定【図書】</p> <p>⑥ 芦高80年史編纂に向けての資史料収集・データベース化【図書】</p>	<p>① 模擬試験や定期考査の成績を分析し、生徒の取り組み状況については生活実態調査の分析により評価する。【2年】</p> <p>② 生徒が新聞記事などを利用して、さまざまな事柄についての自分の意見や考えを示すことができるようになる。【1年】</p> <p>③ 指針ができたか否か【図書】</p> <p>④ ・廃棄基準の作成 済 ・購入リストの作成 済 ・自治会幹事会で下ろす。図書員会で決定 済 ・意図的に購入している【図書】</p> <p>(未作成)</p> <p>(未実施)</p>	<p>B</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>B</p>	<p>① 朝補習などを主体的に活用し、自学自習の習慣が少し確立でき、大きな成績の低下を防ぐことができた。【2年】</p> <p>② 情報をもとに思考するだけでなく、「指南魚」（生徒による「羅針盤」）を作成することにより、自身が思考したことをどのように発信するかを考えることができた。【1年】</p> <p>③ 県立芦屋高校図書館スタッフマニュアル（簡易版）を作成し、将来に対しても課題を明確化した。【図書】</p> <p>④ 図書館が施設面からみて学習の場としては不適な環境である（主に冷暖房面から）。授業だけでなく、気軽に昼休みや放課後、生徒が訪れやすい環境となるための整備が急がれる。 a) 「廃棄基準」を作成し（H28/4）たものの、図書購入予算の関係もあり辞（事・字）典類を中心に新陳代謝が進んでいない。日常的な配架点検は今後、図書委員会の補助を得ながら意識的に行う必要がある。 b) 今年度は『Tarzan』をリクエスト本として購入（昨年度～『number』、ほかに理科の『newton』いずれも継続購読している）。 c) 他文化理解・外国人生徒支援を意識した図書、手話・LGBT関連本などを優先的に購入した。また全冊そろっている岩波文庫・岩波／中公新書については今年度も刊行されたすべてを購入した。文学関連は抑制した。一方、読書感想文課題図書などは複本購入している。図書購入費が少ないため選書には苦勞している。</p> <p>⑤ 現在のところできていない。図書館を利用した「調べ学習」は芦高タイム・保健体育・家庭科、書道科などで行われているが、学習指導要領の謳う「主体的・対話的で、より深い学び」の実践には程遠い。その一助となるべく、図書課教職員を中心に図書館使用オリエンテーション計画を立案するとともに、早急に『基本計画』を策定しなければならない。</p> <p>⑥ データベース化に向けての作業は遅れている。</p>
<p>(4) 教職員としての資質と実践的指導力を向上し、教職員の協働体制による学校の組織力の向上</p>	<p>① 日本学生支援機構給付奨学金の選考に関する手続き、基準、組織を明確にする。【総務】</p> <p>② 新支援システムの安定的な運用【教務】</p> <p>③ サポート終了（Windows Vista、Office2007）PCへの対応【広報情報】</p>	<p>① 選考基準や選考過程に対する学校内外からの意見をもって達成評価の基準とする。【総務】</p> <p>② 週報や評価のミスなくす。【教務】</p> <p>③ 年度末段階で整備状況の確認を行うことで評価する。【広報情報】</p>	<p>A</p> <p>B</p> <p>B</p>	<p>① 評価基準を明文化し、合理的な選抜を行うことができた。【総務】</p> <p>② ミスをなくすために、セルフチェックシートの作成。ヒヤリハットの例示集等を配布し、注意を喚起している。【教務】</p> <p>③ 図書室のPCは交換を終了したが、選択8教室のPCに関しては、代替PCがないため今後対応を検討する必要がある。【広報情報】</p>

<p>(5) 地域に信頼され、地域の期待に応える開かれた学校づくりの推進</p>	<p>①学校ホームページの充実 【広報情報】</p> <p>②学校広報誌（「芦高タイムズ」）の充実 【広報情報】</p> <p>③防災訓練を通じて、生徒一人一人の防災意識、自主性、判断能力の育成をはかる。 【総務】</p>	<p>①・②ともに、校内および校外（オープンハイスクール等）アンケートにより評価する。 【広報情報】</p> <p>③防災訓練時の生徒の行動、生徒の自治的活動状況を分析し評価の基準とする。 【総務】</p>	<p>B</p> <p>B</p> <p>A</p>	<p>①校内外アンケート（オープンハイスクール・学校説明会・学校評価アンケート）より、学校HPの情報閲覧の割合は昨年度と比べて高くなっている。しかし、生徒の閲覧率が低いため、校内向けにHPをどう活用していくかの検討が必要である。 【広報情報】</p> <p>②今年度は「中学生に向けて本校を紹介する」という視点で制作した。学校評価アンケートより、生徒の閲覧率は昨年度より高く62.4%となった。「芦高タイムズ」発行から3年が経過する。学校HPやブログ、「年次通信」等との差別化をどうはかるか、継続してきたものの恒常化をどう考えるか、次年度さらなる検討が必要である。 【広報情報】</p> <p>③生徒に当事者意識を持たせ、指示されるだけでなく主体的に考え行動することを主眼とする指導体制をつくり、訓練に活かすことができた。 【総務】</p>
<p>(6) 自治・自律の精神及び命と人権を尊重する「心の教育」の推進と豊かな人間性の育成</p>	<p>①自治会活動の活性化 【生徒課】</p> <p>②マナー指導・安全指導、芦高生としての誇りと自覚の象徴である年次章の着用推進として、登校の見守り 【生徒課】</p> <p>③自治を身につけ、新しい伝統を築きあげる主体的な行動できる姿勢を育成する。 【2年】</p> <p>④カウンセリング指導の充実 【保健】</p> <p>⑤救急救命法の拡充 【保健】</p>	<p>①生徒・教員アンケートにより評価する。 【生徒課】</p> <p>②学期ごとの年次章・通学服検査の結果から評価する 【生徒課】</p> <p>③新しい取り組みが生徒に根付いたかを、生活実態調査の分析により評価する。 【2年】</p> <p>④実施回数は十分であったか？ また、コンサルテーションの実施は？ 【保健】</p> <p>⑤実施回数やその内容で評価する。 【保健】</p>	<p>B</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>B</p>	<p>①生徒は85%以上の生徒が、学校を楽しんでいると感じながら通っている。記念祭・体育祭などの行事を通して、運営を主体的に生徒が行う執行部を中心とした取り組みにも満足しているようである。しかし、教員との連携、記念祭の意義や歴史といった深みがないように感じられるので、今後の課題としたい。 【生徒課】</p> <p>②ほとんどの生徒が年次章を着用し、通学服の加工もない。入学前から保護者生徒への呼びかけに始まり、指導委員からの指導により、年次章を意識しているように思う。しかし、芦屋高校の象徴・歴史の重さを感じるのではなく、「注意されるからやる」という消極的なものでもあることから、今後も年次章や服装を正す意義・目的を伝えて行くことが必要だと思われる。 【生徒課】</p> <p>③修学旅行では、自治を身につけ、主体的に計画を立てるなど、現地での活動ができた。その他の行事でも自治会執行部を中心に主体的に、活動できた。 【2年】</p> <p>④カウンセリング指導は必要な生徒に有効に実施できた。回数はほぼ適正であったが、何か起きたときのために余裕があれば良かった。また、コンサルテーションも保健課として十分できた。 【保健】</p> <p>⑤救急救命法は3回実施することができた。 【保健】</p>